



## stcli dp (data protection) コマンド

---

- [stcli dp コマンド, 2 ページ](#)
- [stcli dp cluster コマンド, 3 ページ](#)
- [stcli dp group コマンド, 11 ページ](#)
- [stcli dp peer コマンド, 26 ページ](#)
- [stcli dp schedule コマンド, 40 ページ](#)
- [stcli dp vm コマンド, 44 ページ](#)

## stcli dp コマンド

レプリケーションとディザスタリカバリのためのデータ保護 (DP) コマンドです。

**stcli dp [-h] (vm | group | cluster | peer | schedule)**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>cluster</b>	いずれか 1 つが必須。	このコマンドはサポートされません。
<b>group</b>	いずれか 1 つが必須。	データ保護グループのスナップショット操作。
<b>peer</b>	いずれか 1 つが必須。	サイト レプリケーション ペアリング操作。
<b>schedule</b>	いずれか 1 つが必須。	送信側クラスタのクラスタ全体で、レプリケーションを一時停止してから再開します。
<b>vm</b>	いずれか 1 つが必須。	レプリケーションスナップショット操作による VM データ保護。

### コマンド デフォルト

なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli dp コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

# stcli dp cluster コマンド

データ保護クラスタ操作。



(注) stcli dp cluster、stcli dp cluster network コマンドおよびそのサブコマンドはサポートされません。次の機能が含まれています。

```
stcli dp cluster [-h] {network}
```

```
stcli dp cluster network [-h] {bandwidth,configure,info,delete}
```

```
stcli dp cluster network bandwidth [-h] {update,info}
```

```
stcli dp cluster network bandwidth update [-h] --bw BW
```

```
stcli dp cluster network bandwidth info [-h]
```

```
stcli dp cluster network configure [-h] [--name NAME] --ip-ranges IP-RANGES [IP-RANGES ...]--subnet SUBNET --gateway GATEWAY --vlan VLAN [--bw BW]
```

```
stcli dp cluster network info [-h]
```

```
stcli dp cluster network delete [-h] [--name NAME]
```

## stcli dp cluster [-h] {network}

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>network</b>	必須です。	Hyperflex クラスタ レプリケーション ネットワーク操作

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp cluster コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp cluster network コマンド

HyperFlex 仮想マシン クラスタ ネットワーキング操作。



(注) このコマンド `stcli dp cluster network` およびそのサブコマンドはサポートされません。次の機能が含まれています。

```
stcli dp cluster network bandwidth [-h] {update,info}
stcli dp cluster network bandwidth update [-h] --bw BW
stcli dp cluster network bandwidth info [-h]
stcli dp cluster network configure [-h] [--name NAME] --ip-ranges IP-RANGES [IP-RANGES
...]--subnet SUBNET --gateway GATEWAY --vlan VLAN [--bw BW]
stcli dp cluster network info [-h]
stcli dp cluster network delete [-h] [--name NAME]
```

**stcli dp cluster network [-h] {bandwidth,configure,info,delete}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>bandwidth</b>	いずれか 1 つが必須。	このクラスタのレプリケーション ネットワークの帯域幅を設定します。
<b>configure</b>	いずれか 1 つが必須。	このクラスタのレプリケーション ネットワーク パラメータを指定します。
<b>delete</b>	いずれか 1 つが必須。	このクラスタのレプリケーション ネットワークを削除します。
<b>info</b>	いずれか 1 つが必須。	このクラスタのレプリケーション ネットワークに関する設定情報をリストします。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp cluster network` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp cluster network bandwidth コマンド

HyperFlex クラスタ レプリケーションのネットワーク帯域幅操作。



(注) このコマンド `stcli dp cluster network bandwidth` およびそのサブコマンドはサポートされません。次の機能が含まれています。

```
stcli dp cluster network bandwidth [-h] {update,info}
stcli dp cluster network bandwidth update [-h] --bw BW
stcli dp cluster network bandwidth info [-h]
```

### stcli dp cluster network bandwidth [-h] {update,info}

#### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>info</b>	いずれか1つが必須。	クラスタ レプリケーションのネットワーク帯域幅設定をリストします。
<b>update</b>	いずれか1つが必須。	クラスタ レプリケーションのネットワーク帯域幅設定を変更します。

#### コマンド デフォルト

なし。

#### 使用上のガイドライン

`stcli dp cluster network` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

**stcli dp cluster network bandwidth info コマンド**

HyperFlex クラスタ レプリケーションのネットワーク帯域幅設定をリストします。



---

(注) このコマンドはサポートされません。

---

**stcli dp cluster network bandwidth info [-h]**

---

コマンド デフォルト なし。

---

使用上のガイドライン stcli dp cluster network bandwidth info コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できません。

**stcli dp cluster network bandwidth update コマンド**

HyperFlex クラスタ レプリケーションのネットワーク帯域幅設定。



(注) このコマンドはサポートされません。

**stcli dp cluster network bandwidth update [-h] --bw BW****構文の説明**

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--bw BW</b>	必須です。	クラスタ レプリケーションのネットワーク帯域幅値を指定します。

**コマンド デフォルト**

なし。

**使用上のガイドライン**

stcli dp cluster network bandwidth update コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp cluster network configure コマンド

HyperFlex データ保護クラスタ ネットワーキング設定操作。



(注) このコマンド `stcli dp cluster network configure` はサポートされません。

```
stcli dp cluster network configure [-h] [--name NAME] --ip-ranges IP-RANGES [IP-RANGES ...]
--subnet SUBNET --gateway GATEWAY --vlan VLAN [--bw BW]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<code>--name NAME</code>	これはオプションです。	レプリケーションネットワークに割り当てられている名前を参照します。
<code>--ip-ranges IP-RANGES [IP-RANGES ...]</code>	必須です。	レプリケーションネットワークを構成するためにクラスタノードに割り当てられている IP 範囲 (プラス 1)。
<code>--subnet SUBNET</code>	必須です。	レプリケーションネットワークのサブネット。
<code>--gateway GATEWAY</code>	必須です。	レプリケーションネットワークのゲートウェイ
<code>--vlan VLAN</code>	必須です。	レプリケーションネットワークに割り当てられた VLAN ID。
<code>--bw BW</code>	これはオプションです。	レプリケーションネットワークで使用される総帯域幅。kbps 単位

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp cluster network configure` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。



## stcli dp cluster network delete コマンド

HyperFlex データ保護クラスタ ネットワークを削除します。



(注) このコマンド `stcli dp cluster network delete` はサポートされません。

### stcli dp cluster network delete [-h] [--name NAME]

#### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<code>--name NAME</code>	これはオプションです。	削除するクラスタ レプリケーション ネットワークの名前。

#### コマンド デフォルト

デフォルトは、現在ログイン中のクラスタのクラスタ レプリケーション ネットワークです。

#### 使用上のガイドライン

`stcli dp cluster network delete` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp cluster network info コマンド

HyperFlex データ保護クラスタ ネットワーキング設定情報。



---

(注) このコマンド `stcli dp cluster network info` はサポートされません。

---

### stcli dp cluster network info [-h]

---

コマンド デフォルト なし。

---

使用上のガイドライン `stcli dp cluster network info` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group コマンド

個々の仮想マシンではなく仮想マシンの保護グループに適用される HX Data Platform ディザスタリカバリ コマンドとネイティブのレプリケーション コマンド。

**stcli dp group [-h] {add | list | delete | vm | snapshot | schedule | halt}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>add</b>	いずれか 1 つが必須。	データ保護グループを追加します。
<b>list</b>	いずれか 1 つが必須。	データ保護グループのリスト。
<b>delete</b>	いずれか 1 つが必須。	データ保護グループを削除します。
<b>vm</b>	いずれか 1 つが必須。	データ保護グループ内の VM タスク。
<b>snapshot</b>	いずれか 1 つが必須。	データ保護グループ内のスナップショット操作。 このコマンドはサポートされません。
<b>schedule</b>	いずれか 1 つが必須。	データ保護グループのレプリケーションをスケジュールします。
<b>halt</b>	いずれか 1 つが必須。	データ保護グループのレプリケーションを停止します。

### コマンド デフォルト

なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group add コマンド

データ保護グループを追加します。

**stcli dp group add [-h] --groupname GROUPNAME**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--groupname GROUPNAME</b>	必須作業です。	保護グループの名前。

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group add コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group delete コマンド

指定されたデータ保護グループを削除します。

**stcli dp group delete [-h] --groupid GROUPID**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--groupid GROUPID</b>	必須作業です。	保護グループの ID。 保護グループを削除するには、すべての仮想マシンを削除する必要があります。

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group delete コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group halt コマンド

保護グループ内の仮想マシンのスナップショット作成、レプリケーションスナップショットのターゲットHXストレージクラスタへの送信などを含むレプリケーションプロセスを（通常一時的に）停止します。

**stcli dp group halt [-h] --groupid GROUPID [--force]**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--groupid GROUPID</b>	必須作業です。	リストされた groupid に一致する保護グループの仮想マシンのレプリケーションを停止します。
<b>--force</b>	これはオプションです。	引数を検証せずにレプリケーションを停止します。

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group halt コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group list コマンド

データ保護グループの設定およびスケジュールをリストします。

**stcli dp group list [-h] [--groupname GROUPNAME] [--groupid GROUPID]**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--groupname GROUPNAME</b>	これはオプションです。	保護グループを付与されているグループ名とともにリストします。
<b>--groupid GROUPID</b>	これはオプションです。	保護グループを付与されたIDとともにリストします。

### コマンド デフォルト

すべてのデータ保護グループをリストします。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group list コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

### 例

この例では、データ保護グループをリストしています。

```
# stcli dp group list
clusterEr:
  type: cluster
  id: 21038104951568023:6930626691413900957
  name: source17-2.5.1a
vmGroupState: active
vmGroupEr:
  type: dp_vmgroup
  id: 4de5d40f-82d6-40f6-9425-e4942bdd9be9
  name: group1
members:
-----
  idtype: 2
  type: dp_vm
  id: 423f38fd-9754-a25c-0d60-1ddacacaac60
-----
  idtype: 2
  type: dp_vm
  id: 423fc732-4841-3a0a-8d75-6c7bdcf8de67
-----
schedules:
  replicationSchedule:
    targetClusterEr:
      type: cluster
      id: 1279191129902762643:7329250794747596775
      name: target17-2.5.1a
    enabled: True
    mode: 2
```

```
startTime: 07/19/17_20:24  
intervalInMinutes: 15
```



## stcli dp group vm コマンド

Hyperflex データ保護グループ VM 操作。

```
stcli dp group vm [-h] {add | list | delete}
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>add</b>	いずれか1つが必須。	VM をデータ保護グループに追加します。
<b>list</b>	いずれか1つが必須。	データ保護グループ内のVMをリストします。
<b>delete</b>	いずれか1つが必須。	データ保護グループから VM を削除します。

### コマンド デフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group vm コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group vm add コマンド

VM をデータ保護グループに追加します。

```
stcli dp group vm add [-h] --groupid GROUPID --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--groupid GROUPID</b>	必須です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	保護グループに追加する仮想マシンの ID。
<b>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</b>	これはオプションです。	保護グループに追加する仮想マシンの ID タイプ。 VCMOID オプションはサポートされません。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp group vm add コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group vm delete コマンド

保護グループの VM を削除します。

```
stcli dp group vm delete [-h] --groupid GROUPID --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<code>--groupid GROUPID</code>	必須です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
<code>--vmid VMID</code>	必須です。	保護グループから削除する仮想マシンの ID。
<code>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</code>	これはオプションです。	保護グループから削除する仮想マシンの ID タイプ。 データ保護グループから VM を削除します。 VCMOID オプションはサポートされません。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp group vm add` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group vm list コマンド

データ保護グループに含まれている VM をリストします。

**stcli dp group vm list [-h] --groupid GROUPID**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--groupid GROUPID</b>	必須作業です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp group vm list コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group schedule コマンド

Hyperflex 保護グループ スケジュール操作。

```
stcli dp group schedule [-h] {set | get}
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>set</b>	いずれか1つが必須。	データ保護グループのレプリケーションスケジュールを設定します。
<b>get</b>	いずれか1つが必須。	データ保護グループのレプリケーションスケジュールを取得します。

### コマンド デフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group schedule get コマンド

データ保護グループのレプリケーション スケジュール情報をリストします。

**stcli dp group schedule get [-h] --groupid GROUPID [--outgoing OUTGOING]**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--groupid GROUPID</b>	必須作業です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
<b>--outgoing OUTGOING</b>	これはオプションです。	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスタの ID。

### コマンド デフォルト

発信クラスタは、ペアリングされたリモート クラスタです。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group schedule get コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group schedule set コマンド

データ保護グループのレプリケーション スケジュールを設定します。

```
stcli dp group schedule set [-h] --groupid GROUPID --replication-interval REPINTERVALINMINS
[--start-time REPSTARTTIME] [--quiesce-using-tools] [--outgoing OUTGOING]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--groupid GROUPID</b>	必須作業です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
<b>--replication-interval REPINTERVALINMINS</b>	必須作業です。	分単位のレプリケーション間隔（頻度）。ここでは、VM をターゲット クラスタにレプリケートする頻度を設定します。
<b>--start-time REPSTARTTIME</b>	これはオプションです。	mm/dd/yy_HH_MM 形式でのレプリケーション開始時刻。最初のレプリケーションをいつ開始するかを指定します。
<b>--quiesce-using-tools</b>	これはオプションです。	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーション グループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。
<b>--outgoing OUTGOING</b>	これはオプションです。	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスタの ID。

### コマンド デフォルト

開始時刻は、コマンドの実行直後です。休止は設定されていません。発信クラスタは、ペアリングされたリモート クラスタです。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group schedule set コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group snapshot コマンド

HX Data Platform データ保護グループのスナップショット操作。



(注) このコマンドはサポートされません。

**stcli dp group snapshot [-h] {create}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>create</b>	必須です。	指定された保護グループ内のすべての VM のデータ保護スナップショットを作成します。

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group snapshot コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



## stcli dp group snapshot create コマンド

特定のグループ内の VM のデータ保護レプリケーション スナップショットを作成します。



(注) このコマンドはサポートされません。

```
stcli dp group snapshot create [-h] --groupid GROUPID --snapshot SNAPSHOT [--desc DESC] [--quiesce]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--groupid GROUPID</b>	必須です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
<b>--snapshot SNAPSHOT</b>	必須です。	スナップショットの名前。
<b>--desc DESC</b>	これはオプションです。	スナップショットの説明。
<b>--quiesce</b>	これはオプションです。	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーショングループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。

### コマンド デフォルト

説明は空白です。休止は設定されていません。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group snapshot create コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer コマンド

レプリケーション ペアのリモート（ピア） クラスタでの Hyperflex データ保護操作。

**stcli dp peer [-h] {get | add | list | query | edit | datastore | delete | forget | schedule}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>get</b>	いずれか 1 つが必須。	ピア クラスタの詳細を取得します。
<b>add</b>	いずれか 1 つが必須。	指定された入力を使用してピアを追加します。
<b>list</b>	いずれか 1 つが必須。	すべてのピアを表示します。
<b>query</b>	いずれか 1 つが必須。	ピア詳細を取得するためにピアに問い合わせます。
<b>edit</b>	いずれか 1 つが必須。	ピア管理 IP のピアの説明を編集します。
<b>datastore</b>	いずれか 1 つが必須。	既存のピアでマップされたデータストアを編集します。
<b>delete</b>	いずれか 1 つが必須。	レプリケーション ペアを削除します。
<b>forget</b>	いずれか 1 つが必須。	指定された入力を使用してピアを削除します。
<b>schedule</b>	いずれか 1 つが必須。	ピア スケジュール操作。

### コマンド デフォルト

なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli dp peer コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer add コマンド

指定された入力を使用してレプリケーション ペアを追加します。

```
stcli dp peer add [-h] --name NAME --description DESCRIPTION --mgmtIp MGMTIP --username USERNAME [--password PASSWORD]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須作業です。	クラスタ ペアの名前。
<b>--description DESCRIPTION</b>	必須作業です。	クラスタ ペアの説明。
<b>--mgmtIp MGMTIP</b>	必須作業です。	ピアクラスタの管理 IP。
<b>--username USERNAME</b>	必須作業です。	ピアクラスタのユーザ名。
<b>--password PASSWORD</b>	プロンプト表示。	ピアクラスタのユーザ パスワード。 推奨：コマンド文字列にパスワードを入力しないでください。プロンプトに回答してください。

**コマンド デフォルト** なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp peer get コマンドでは、2 つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer datastore コマンド

既存のレプリケーション ペアでマップされたデータストアを編集します。

**stcli dp peer datastore [-h] {edit | editstatus}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>edit</b>	いずれか 1 つが必須。	ピア管理 IP のペアの説明を編集します。
<b>editstatus</b>	いずれか 1 つが必須。	データストア編集ジョブのステータス。

### コマンド デフォルト

なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli dp peer datastore コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer datastore edit コマンド

既存のレプリケーションペアでマップされたデータストアを編集します。

**stcli dp peer datastore edit [-h] --name NAME --datastore DATASTORE**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須作業です。	クラスタ ペアの名前。
<b>--datastore DATASTORE</b>	必須作業です。	データストアは、操作とペアリングされます。フォーマットは次のとおりです。  local_ds:remote_ds:OPERATION  操作の選択 : ADD、DELETE。

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp peer datastore edit コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

### 例

この例では、レプリケーションペアに関連付けられているデータストアを変更しています。

```
# stcli dp peer datastore edit
<local ds 1>:<peer ds 1>:ADD,<local ds 2>:<peer ds 2>:DELETE,..
```

## stcli dp datastore editstatus コマンド

レプリケーション ペアのデータストア マッピング変更のステータスを表示します。

**stcli dp peer datastore editstatus [-h] [--jobid JOBID]**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--jobid JOBID		これはオプションです。 データストア変更タスクのジョブ ID。

### コマンド デフォルト

ジョブ ID のデフォルトでは、すべてのデータストア編集のステータスがすべて表示されます。

### 使用上のガイドライン

stcli dp peer datastore editstatus コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

### 例

この例では、レプリケーション ペアに関連付けられているデータストアを変更しています。

```
# stcli dp peer datastore editstatus
[<jobid>,<jobid>...,<jobid>]
```

## stcli dp peer delete コマンド

レプリケーションペアからピアを削除します。

```
stcli dp peer delete [-h] --name NAME --username USERNAME [--password PASSWORD] [--mgmtIp MGMTIP]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須作業です。	クラスタ レプリケーション ペアの名前。
<b>--username USERNAME</b>	必須作業です。	ピアクラスタのユーザ名。
<b>--password PASSWORD</b>	プロンプト表示。	ピアクラスタのユーザ パスワード。 推奨：コマンド文字列にパスワードを入力しないでください。プロンプトに応答してください。
<b>--mgmtIp MGMTIP</b>	これはオプションです。	ピアクラスタの管理 IP。

### コマンド デフォルト

管理 IP は、現在関連付けられているピアと見なされます。

### 使用上のガイドライン

stcli dp peer delete コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer edit コマンド

ペアの説明またはピア管理 IP を編集します



(注) このコマンドはサポートされません。

```
stcli dp peer edit [-h] --name NAME [--description DESCRIPTION] [--mgmtIp MGMTIP] --username USERNAME [--password PASSWORD]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須です。	クラスタ ペアの名前
<b>--description DESCRIPTION</b>	必須です。	クラスタ ペアの説明
<b>--mgmtIp MGMTIP</b>	必須です。	ピアクラスタの管理 IP
<b>--username USERNAME</b>	必須です。	ピアクラスタのユーザ名
<b>--password PASSWORD</b>	プロンプト表示。	ピアクラスタのユーザパスワード。コマンド文字列にパスワードを入力しないでください。プロンプトに応答してください。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer edit コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



## stcli dp peer forget コマンド

これは、ピア間のペアリング（ソースクラスタとターゲットクラスタ）を解除します。別のクラスタとペアリングするために各クラスタを解放します。

**stcli dp peer forget [-h] [--name NAME] [--all]**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--all</b>	いずれか1つが必須。	すべての部分的なペアと正常にペアになったクラスタの、ピア間のペアリングを解除します。
<b>--name NAME</b>	いずれか1つが必須。	指定された名前のクラスタペアのために、ピア間のペアリング（ソースクラスタとターゲットクラスタ）を解除します。

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp peer forget コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer get コマンド

ピア クラスタの詳細をリストします。

```
stcli dp peer get [-h] --mgmtIp MGMTIP --username USERNAME [--password PASSWORD]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--mgmtIp MGMTIP</b>	必須作業です。	ピアクラスタの管理 IP。
<b>--username USERNAME</b>	必須作業です。	ピアクラスタのユーザ名。
<b>--password PASSWORD</b>	プロンプト表示。	ピアクラスタのユーザ パスワード。 推奨：コマンド文字列にパスワードを入力しないでください。プロンプトに応答してください。

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp peer get コマンドでは、2つのダッシュ (-) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer list コマンド

すべてのレプリケーション ペアを表示します。

**stcli dp peer list [-h]**

**コマンド デフォルト** なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp peer list コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer query コマンド

ペアの詳細についてレプリケーション ペアに問い合わせます。

**stcli dp peer query [-h] --name NAME**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須作業です。	クラスタ レプリケーション ペアの名前。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer query コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer schedule コマンド

Hyperflex リモート（ピア）クラスタ スケジュール操作。



(注) このコマンドとそのサブコマンドはサポートされません。

**stcli dp peer schedule [-h] {pause,resume}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>pause</b>	いずれか1つが必須。	レプリケーションを一時停止します。リモートクラスタからのデータレプリケーションビットの送信を一時停止します。
<b>resume</b>	いずれか1つが必須。	レプリケーションを再開します。リモートクラスタからのデータレプリケーションビットの送信を再開します。

### コマンドデフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli dp peer schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer schedule pause コマンド

レプリケーションを一時停止します。既存のジョブの監視を停止し、リモートクラスタにレプリケーション スナップショット ビットを送信する新しいジョブの作成を停止します。



---

(注) このコマンドはサポートされません。

---

### stcli dp peer schedule pause [-h]

---

コマンド デフォルト なし。

---

使用上のガイドライン stcli dp peer schedule pause コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer schedule resume コマンド

レプリケーションを再開します。既存のジョブの監視を再開し、リモートクラスタにデータレプリケーションビットを送信する新しいジョブの作成を再開します。



---

(注) このコマンドはサポートされません。

---

### stcli dp peer schedule resume [-h]

---

コマンド デフォルト なし。

---

使用上のガイドライン stcli dp peer schedule resume コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp schedule コマンド

データ保護スケジュール操作。

**stcli dp schedule [-h] {pause | resume | status}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>pause</b>	いずれか1つが必須。	レプリケーションを一時停止します。リモートクラスタへのレプリケーションスナップショットビットの送信を停止します。
<b>resume</b>	いずれか1つが必須。	レプリケーションを再開します。リモートクラスタへのレプリケーションスナップショットビットの送信を再開します。
<b>status</b>	いずれか1つが必須。	スケジューラの状態のクエリを実行します。これはデータベースの状態であり、スケジュールされたイベントの状態ではありません。スケジューラがフルであることを意味するものではありません。

### コマンドデフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli dp schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



## stcli dp schedule pause コマンド

レプリケーションを一時停止します。既存のジョブの監視を停止し、リモートクラスタにレプリケーション スナップショット ビットを送信する新しいジョブの作成を停止します。

**stcli dp schedule pause [-h]**

**コマンド デフォルト** なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp schedule pause コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp schedule resume

レプリケーションを再開します。既存のジョブの監視を再開し、リモートクラスタにデータレプリケーション ビットを送信する新しいジョブの作成を再開します。

**stcli dp schedule resume [-h]**

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp schedule resume コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp schedule status

スケジューラの状態のクエリを実行します。これはデータベースの状態であり、スケジュールされたイベントの状態ではありません。スケジューラがフルであることを意味するものではありません。

### stcli dp schedule status [-h]

**コマンド デフォルト** なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp schedule status コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm コマンド

保護グループを介してではなく、仮想マシンに個別に適用される HX Data Platform ディザスタ リカバリ コマンドとネイティブのレプリケーション コマンド。

**stcli dp vm [-h] {add | list | info | delete | schedule | recover | halt}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>add</b>	いずれか 1 つが必須。	仮想マシンにデータ保護を追加します。
<b>clone</b>	非サポート対象	このコマンドはサポートされません。
<b>delete</b>	いずれか 1 つが必須。	仮想マシンからデータ保護を削除します。
<b>halt</b>	いずれか 1 つが必須。	仮想マシンのレプリケーションを停止します。
<b>info</b>	いずれか 1 つが必須。	データが保護されている仮想マシンに関する情報を表示します。
<b>list</b>	いずれか 1 つが必須。	データが保護されている仮想マシンをリストします。
<b>recover</b>	いずれか 1 つが必須。	仮想マシンのリカバリ操作。
<b>restore</b>	非サポート対象	このコマンドはサポートされません。
<b>schedule</b>	いずれか 1 つが必須。	仮想マシンのデータ保護をスケジュールします。
<b>snapshot</b>	非サポート対象	このコマンドはサポートされません。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm add コマンド

仮想マシンでデータ保護を追加します。

```
stcli dp vm add [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<code>--vmid VMID</code>	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID です (vcmoid、vmbiosuuid)。vCenter VCMOID を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
<code>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</code>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID のタイプです (vcmoid、vmbiosuuid)。vCenter VCMOID を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。  VCMOID オプションはサポートされません。

コマンド デフォルト なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm add コマンドでは、2 つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm clone コマンド

HyperFlex 仮想マシン クローン操作。



(注) このコマンドとそのサブコマンドはサポートされません。

**stcli dp vm clone [-h] {now,list}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>now</b>	いずれか 1 つが必須。	指定された仮想マシンとしてクローンを作成し、復元します。
<b>list</b>	いずれか 1 つが必須。	このクラスターで使用可能なクローンをリストします。

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp vm clone コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm clone list コマンド

このクラスターで使用可能なクローンをリストします。



(注) このコマンドはサポートされません。

```
stcli dp vm clone list [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}] [--clone-id CLONEID]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</b>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 VCMOID オプションはサポートされません。
<b>--clone-id CLONEID</b>	これはオプションです。	仮想マシンのクローン ID。

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp vm clone list コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm clone now コマンド

指定された仮想マシンとしてクローンを作成し、復元します。



(注) このコマンドはサポートされません。

```
stcli dp vm clone now [-h] (--snapid SNAPSHOTID | --latest {LATEST,LATESTSNAPSHOT}) --vmid
VMID [--vmidtype {VCMOID,VM BIOSUUID}] --newname NEWVMNAME [--rpid
RESOURCEPOOLID | --rpname RESOURCEPOOLNAME] [--fdid FOLDERID | --fdname
FOLDERNAME]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--snapid SNAPSHOTID</b>	いずれか1つが必須。	クローンの作成元となるVMのスナップショットID。
<b>--latest {LATEST,LATESTSNAPSHOT}</b>	いずれか1つが必須。	クローンの作成元となるVMの最新のスナップショット。オプション: LATEST または LATESTSNAPSHOT (スナップショットIDの場合)。
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	指定したBIOSUUIDに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--vmidtype {VCMOID,VM BIOSUUID}</b>	これはオプションです。	指定したIDタイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 VCMOIDオプションはサポートされません。
<b>--newname NEWVMNAME</b>	必須です。	新しいVMクローンにこの名前を割り当てます。
<b>--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID</b>	省略可能なペアの1つ。	回復したVMを指定されたIDのリソースプールに配置します。 リソースプールとフォルダの両方ではなく、いずれか一方を設定します。
<b>--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME</b>	省略可能なペアの1つ。	回復したVMを指定された名前のリソースプールに配置します。 リソースプールとフォルダの両方ではなく、いずれか一方を設定します。



オプション	必須またはオプション	説明
<b>--folder-id FOLDER-ID</b>	省略可能なペアの1つ。	回復した VM を指定された ID のフォルダに配置します。  リソース プールとフォルダの両方ではなく、いずれか一方を設定します。
<b>--folder-name FOLDER-NAME</b>	省略可能なペアの1つ。	回復した VM を指定された名前のフォルダに配置します。  リソース プールとフォルダの両方ではなく、いずれか一方を設定します。

リソース プール (rpid) またはフォルダ (fdid) を使用する場合は、rpid または fdid のいずれかのみを使用し、両方は指定しないでください。クローンが完了すると、他のグループ、フォルダ、またはリソース プールを追加できます。

**コマンド デフォルト** なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm clone now コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm delete コマンド

仮想マシンからデータ保護を削除します。

```
stcli dp vm delete [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<code>--vmid VMID</code>	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID です (vcmoid、vmbiosuuid)。vCenter VCMOID を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
<code>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</code>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID のタイプです (vcmoid、vmbiosuuid)。vCenter VCMOID を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。  VCMOID オプションはサポートされません。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm delete コマンドでは、2 つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm halt コマンド

クラスタで障害が発生した場合や、リカバリ プロセスをテストしているときには、レプリケーション アクティビティを再開するために、障害が発生したクラスタによる試行を停止する必要があります。これにより、侵害されたクラスタはレプリケーションできなくなり、破損したデータが HX ストレージクラスタに導入されることもありません。

**stcli dp vm halt [-h] --vmid VMID [--force]**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須作業です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--force</b>	これはオプションです。	引数の検証とリカバリを行わないでください

### コマンド デフォルト

--force オプションを指定しない場合、このコマンドはすべての引数を検証してから処理を進めます。

### 使用上のガイドライン

stcli dp vm halt コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm info コマンド

データ保護仮想マシン情報をリストします。

**stcli dp vm info [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}]**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID です (vcmoid、vmbiosuuid)。vCenter VCMOID を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
<b>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</b>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID のタイプです (vcmoid、vmbiosuuid)。vCenter VCMOID を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。  VCMOID オプションはサポートされません。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm info コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm list コマンド

データ保護を備えた仮想マシンをリストします。表示内容には、レプリケーション スケジュールが含まれています。

**stcli dp vm list [-h] [--vmname VMNAME] [--vmid VMID] [--brief]**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmname VMNAME</b>	これはオプションです。	指定された名前に一致する保護された仮想マシンをリストします。
<b>--vmid VMID</b>	これはオプションです。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--brief</b>	これはオプションです。	概要のみを表示します。

### コマンド デフォルト

デフォルトでは、保護されたすべての仮想マシンをリストします。

### 使用上のガイドライン

stcli dp vm list コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

### 例

次の例では、保護された仮想マシンの概要をリストしています。

```
# stcli dp vm list --brief
vmInfo:
-----
name: dslvm-2
uuid: 423f11c4-20c9-893b-0dd8-2a0ad59ad634
-----
name: dslvm-1
uuid: 423f1d85-990a-4e06-ebef-a215c0ec4cf8
-----
```

## stcli dp vm recover コマンド

リカバリ HX ストレージクラスタから個々の仮想マシンを回復するためのものです。リカバリ HX ストレージクラスタは、仮想マシンを保護するレプリケーションペアのターゲットクラスタです。

**stcli dp vm recover [-h] {test | failover | status}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>test</b>	いずれか 1 つが必須。	指定した VM のテスト リカバリ。
<b>failover</b>	いずれか 1 つが必須。	指定した VM のフェールオーバー リカバリ。
<b>status</b>	いずれか 1 つが必須。	指定したジョブまたはすべてのジョブのリカバリ ステータス。

### コマンド デフォルト

なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli dp vm recover コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm recover failover コマンド

リカバリ HX ストレージクラスタから個々の仮想マシンをフェールオーバーするためのものです。リカバリ HX ストレージクラスタは、仮想マシンを保護するレプリケーションペアのターゲットクラスタです。

このコマンドは、status コマンドによるモニタに使用されるジョブ ID を出力します。

```
stcli dp vm recover failover [-h] --vmid VMID [--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID |
--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME] [--folder-id FOLDER-ID | --folder-name
FOLDER-NAME] [--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]] [--poweron]
[--force]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須作業です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID</b>	省略可能なペアの 1 つ。	回復した VM を指定された ID のリソースプールに配置します。
<b>--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME</b>	省略可能なペアの 1 つ。	回復した VM を指定された名前のリソースプールに配置します。
<b>--folder-id FOLDER-ID</b>	省略可能なペアの 1 つ。	回復した VM を指定された ID のフォルダに配置します。
<b>--folder-name FOLDER-NAME</b>	省略可能なペアの 1 つ。	回復した VM を指定された名前のフォルダに配置します。
<b>--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]</b>	これはオプションです。	送信元ネットワークを宛先ネットワークにマップします。形式は <code>source_network:destination_network</code> です。次に例を示します。  <code>--network-mapping "source_network1:destination_network1","source_network2:destination_network2"</code>
<b>--poweron</b>	これはオプションです。	リカバリ後に VM の電源をオンにします
<b>--force</b>	これはオプションです。	引数の検証とリカバリを行わないでください

### コマンド デフォルト

場所は、デフォルトではコマンド実行パスになります。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm recover failover コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



## stcli dp vm recover status コマンド

現在実行されているすべてのリカバリ ジョブの状態を一覧表示します。1 つまたは複数のジョブ ID を指定すると、それらのジョブについてのみリカバリ ステータスが表示されます。

```
stcli dp vm recover status [-h] [--id JOBID [JOBID ...] | --list]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<code>--id JOBID [JOBID ...]</code>	これはオプションです。	リストされているジョブ ID を持つジョブのリカバリの状態を表示します。
<code>--list</code>	これはオプションです。	実行中のすべてのリカバリ ジョブをリストします。

### コマンド デフォルト

デフォルトでは、すべてのオープン リカバリ ジョブをリストします。

### 使用上のガイドライン

`stcli dp vm recover status` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm recover test コマンド

リカバリ HX ストレージクラスタから個々の仮想マシンのリカバリをテストするためのものです。リカバリ HX ストレージクラスタは、仮想マシンを保護するレプリケーションペアのターゲットクラスタです。

このコマンドは、status コマンドによるモニタに使用されるジョブ ID を出力します。

```
stcli dp vm recover test [-h] --vmid VMID [--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID | --resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME] [--folder-id FOLDER-ID | --folder-name FOLDER-NAME] [--test-network TESTNETWORK] [--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]] [--poweron] [--force] [--newname NEWNAME]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須作業です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンをリストします。
<b>--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID</b>	省略可能なペアの1つ。	回復した VM を指定された ID のリソースプールに配置します。
<b>--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME</b>	省略可能なペアの1つ。	回復した VM を指定された名前のリソースプールに配置します。
<b>--folder-id FOLDER-ID</b>	省略可能なペアの1つ。	回復した VM を指定された ID のフォルダに配置します。
<b>--folder-name FOLDER-NAME</b>	省略可能なペアの1つ。	回復した VM を指定された名前のフォルダに配置します。
<b>--test-network TESTNETWORK</b>	これはオプションです。	テストリカバリに使用するネットワークをテストします。リカバリ後、すべての送信元ネットワークがこのネットワークに割り当てられます。
<b>--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]</b>	これはオプションです。	送信元ネットワークを宛先ネットワークにマップします。形式は <code>source_network:destination_network</code> です。次に例を示します。  <pre>--network-mapping "source_network1:destination_network1","source_network2:destination_network2"</pre>
<b>--poweron</b>	これはオプションです。	リカバリ後に VM の電源をオンにします。
<b>--force</b>	これはオプションです。	引数を検証せずにリカバリを実行します。

オプション	必須またはオプション	説明
<code>--newname NEWNAME</code>		これはオプションです。 テストで回復した VM の新しい名前。

#### コマンド デフォルト

デフォルトでは、テストリカバリは `HxTestRecovery` フォルダ内にある同じ名前の VM を回復します。

#### 使用上のガイドライン

`stcli dp vm recover test` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm restore コマンド

データ保護仮想マシン復元操作。



(注) このコマンドとそのサブコマンドはサポートされません。

**stcli dp vm restore [-h] {now,list}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>now</b>	いずれか1つが必須。	指定された仮想マシンを復元します。
<b>list</b>	いずれか1つが必須。	このクラスターで利用可能な復元をリストします。

### コマンド デフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli dp vm restore コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm restore list コマンド

このクラスターで利用可能な復元をリストします。



(注) このコマンドはサポートされません。

```
stcli dp vm restore list [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}] [--restore-id RESTORE-ID]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</b>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 VCMOID オプションはサポートされません。
<b>--restore-id RESTORE-ID</b>	これはオプションです。	VM の ID を復元します。

**コマンド デフォルト** デフォルトでは、復元された VM の ID は復元されません。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm restore list コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm restore now コマンド

指定された仮想マシンを復元します。



(注) このコマンドはサポートされません。

```
stcli dp vm restore now [-h] [--snapid SNAPSHOTID | --latest {LATEST,LATESTSNAPSHOT}] --vmid
VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}] [--rpid RESOURCEPOOLID | --rpname
RESOURCEPOOLNAME] [--fdid FOLDERID | --fdname FOLDERNAME]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--snapid SNAPSHOTID</b>	これはオプションです。	復元元となる VM のスナップショット ID。
<b>--latest {LATEST,LATESTSNAPSHOT}</b>	これはオプションです。	復元元となる VM の最新のスナップショット。 オプション: LATEST または LATESTSNAPSHOT (スナップショット ID の場合)。
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	指定した BIOSUUID に一致する仮想マシンで コマンドを実行します。
<b>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</b>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンで コマンドを実行します。  VCMOID オプションはサポートされません。
<b>--rpid RESOURCEPOOL-ID</b>	省略可能なペアの1つ。	回復した VM を指定された ID のリソースプ ールに配置します。  リソースプールとフォルダの両方ではなく、 いずれか一方を設定します。
<b>--rpname RESOURCEPOOL-NAME</b>	省略可能なペアの1つ。	回復した VM を指定された名前のリソ ースプールに配置します。  リソースプールとフォルダの両方ではなく、 いずれか一方を設定します。
<b>--fdid FOLDER-ID</b>	省略可能なペアの1つ。	回復した VM を指定された ID のフォルダに配 置します。  リソースプールとフォルダの両方ではなく、 いずれか一方を設定します。

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--fdname</b> <b>FOLDER-NAME</b>	省略可能なペアの1つ。	回復した VM を指定された名前のフォルダに配置します。  リソース プールとフォルダの両方ではなく、いずれか一方を設定します。
リソース プール (rpid) またはフォルダ (fdid) を使用する場合は、rpid または fdid のいずれかのみを使用し、両方は指定しないでください。クローンが完了すると、他のグループ、フォルダ、またはリソース プールを追加できます。		

**コマンド デフォルト** なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm restore now コマンドでは、2つのダッシュ (-) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm schedule コマンド

HyperFlex データ保護 VM スケジュール操作。

**stcli dp vm schedule [-h] {set,get}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--set</b>	いずれか1つが必須。	VM スケジュール操作を設定します。
<b>--get</b>	いずれか1つが必須。	VM スケジュールを取得します。

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp vm schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



## stcli dp vm schedule get コマンド

VM レプリケーション スケジュール情報を取得します。

```
stcli dp vm schedule get [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<code>--vmid VMID</code>	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<code>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</code>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 VCMOID オプションはサポートされません。

コマンド デフォルト なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm schedule get コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm schedule set コマンド

VM レプリケーション スケジュールを設定します。

```
stcli dp vm schedule set [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}] --replication-interval
REPINTERVALINMINS [--start-time REPSTARTTIME] [--quiesce-using-tools] [--outgoing
OUTGOING]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</b>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 VCMOID オプションはサポートされません。
<b>--replication-interval REPINTERVALINMINS</b>	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
<b>--start-time REPSTARTTIME</b>	オプション	レプリケーション スナップショットの説明。
<b>--quiesce-using-tools</b>	オプション	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーション グループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。
<b>--outgoing OUTGOING</b>	オプション	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスターの ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm snapshot create コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm snapshot コマンド

データ保護仮想マシンのレプリケーション スナップショット操作。



(注) このコマンドとそのサブコマンドはサポートされません。

**stcli dp vm snapshot [-h] {create | replicate | list | info | delete}**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>create</b>	いずれか1つが必須。	仮想マシンのレプリケーション スナップショットを作成します。
<b>replicate</b>	いずれか1つが必須。	仮想マシンのレプリケーション スナップショットをレプリケートします。
<b>list</b>	いずれか1つが必須。	このクラスタで利用できるレプリケーション スナップショットをリストします。
<b>info</b>	いずれか1つが必須。	レプリケーション スナップショットの情報を表示します。
<b>delete</b>	いずれか1つが必須。	指定されたレプリケーション スナップショットを削除します。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm snapshot コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm snapshot create コマンド

仮想マシンのレプリケーション スナップショットを作成します。



(注) このコマンドはサポートされません。

```
stcli dp vm snapshot create [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}] --snapname
SNAPSHOTNAME [--desc DESCRIPTION] [--quiesce]
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	指定した BIOSUUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</b>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 VCMOID オプションはサポートされません。
<b>--snapname SNAPSHOTNAME</b>	必須です。	レプリケーション スナップショットの名前。
<b>--desc DESCRIPTION</b>	これはオプションです。	レプリケーション スナップショットの説明。
<b>--quiesce</b>	これはオプションです。	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーショングループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。

コマンド デフォルト なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm snapshot create コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm snapshot delete コマンド

指定されたレプリケーション スナップショットを削除します。



(注) このコマンドはサポートされません。

**stcli dp vm snapshot delete [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOTID**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</b>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 VCMOID オプションはサポートされません。
<b>--snapshot-id SNAPSHOTID</b>	必須です。	レプリケートする VM のスナップショット ID。

コマンド デフォルト なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm snapshot delete コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm snapshot info コマンド

レプリケーション スナップショットの情報を表示します。



(注) このコマンドはサポートされません。

**stcli dp vm snapshot info [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOTID**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	指定した BIOSUUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</b>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 VCMOID オプションはサポートされません。
<b>--snapshot-id SNAPSHOTID</b>	必須です。	レプリケートする VM のスナップショット ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm snapshot info コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm snapshot list コマンド

このクラスタで利用できるレプリケーション スナップショットをリストします。



(注) このコマンドはサポートされません。

**stcli dp vm snapshot list [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}]**

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</b>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 VCMOID オプションはサポートされません。

コマンド デフォルト なし。

### 使用上のガイドライン

stcli dp vm snapshot list コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm snapshot replicate コマンド

仮想マシンのレプリケーション スナップショットをリモート クラスタにレプリケートします。



(注) このコマンドはサポートされません。

```
stcli dp vm snapshot replicate [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOT-ID --outgoing OUTGOING
```

### 構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--vmidtype {VCMOID,VMBIOSUUID}</b>	これはオプションです。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 VCMOID オプションはサポートされません。
<b>--snapshot-id SNAPSHOTID</b>	必須です。	レプリケートする VM のスナップショット ID。
<b>--outgoing OUTGOING</b>	必須です。	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスタの ID。

コマンド デフォルト なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm snapshot replicate コマンドでは、2 つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。